

「情報」理解から表現への基本指導

—説明文「暮らしの中のまるい形」(東書)を例に—

A basic guidance to express our own concepts after understanding some information

—Using an essay “Kurashi no naka no marui katachi” as an material—

佐藤 洋一 Sato Yoichi

(愛知教育大学 国語教室)

川瀬 淳子 Kawase Junko

(愛知県一宮市立今伊勢小学校教諭)

これまでの国語科の学習においては、〈説明文の要旨のまとめ〉〈物語文の心情読み取り〉〈音読や朗読等における音声化の方法指導〉等が中心であり、コミュニケーション能力の育成や「情報」の理解から表現に結びつける方向が不十分であった。そこで、筆者の主張が論理的にまとめられている説明文教材を取り上げ、〈多面的構造的な思考力の発見である内容面〉や、〈文章構成、例と考察・図表と説明等の「表現技術」〉等、教材の優れた「論理性」に着目し、それらを焦点化したシンプルな理解学習から、児童による発信型の表現学習の指導を行っていきたいと考えた。実践では、5つの「段階的な学習過程」を構成し、〈基本から応用学習へのステップ〉〈各段階における評価の観点〉を育て、「論理的で個性的な表現力・思考力」を楽しく身に付けられるようにした。またワークシートや評価カードを活用することにより、児童の目に見える形で、学習内容の方向、「正確さ」や「個性化」の基本を示し、児童たちの学習技術(自ら学ぶ力)を高められるようにした。

このような指導は、理解したことや情報を「論理的に構成し、表現する」表現技術の学習である。現在求められている、他教科や生活経験の発見の中に生かしていく「総合化」的な発展学習への1つのステップとなる学習であると考えられる。

キーワード 情報のモデル・段階的な指導過程・発信型の表現学習

1. 説明文、音声言語学習の実態

中央教育審議会答申(平成10年7月)、教育課程審議会答申「中間まとめ」(平成9年11月)等を受けて、新しい国語科教育の理念と意識が探求され始めている。特に国語科における指導の中核に「自分の考えをもち、場面や目的に応じて的確に読み取る力や論理的に適切に表現する力」の育成がすすえられていることは重要である。このような観点から考えると、現在行われている説明文、音声言語の指導は多くの問題点を抱えていると言わざるを得ない。

例えば、説明文の学習では、要旨のまとめが中心であり、「形式段落⇒キーワード⇒要約⇒筆者の結論」という指導観で授業が行われることが多い。この型の授業は児童たちにとって「受け身」の学習となりやすく、児童たちが主体的に表現したり、論理的で適切に表現する方法を学ぶ場とはなりにくい。

また、音声言語学習では、〈楽しい活動の場を保証する〉〈読みを深める〉〈個を生かす〉…等といった観点から、音読・朗読・群読、スピーチ、ディベート等の試みが盛んに行われている。それらの場では、発音・発声、抑揚、表情といった音声化の工夫についての指導は行われているが、相手にわかりやすく伝えるために、自分の考えをどのように取捨選択し、構成す

ればよいのかという論理的で個性的な「内容構成」の方法指導は不十分であるのが現状である。文字言語の学習(作文指導)においても、一貫した論理で自分の考えをまとめ、相手、場面、目的に応じた作文指導の方法という面から見れば、そのポイントである「構成」指導は「はじめ」「なか」「おわり」という形式的な構成が示される程度に終わっており、生活作文・生活つづり方作文と論理的なレポート・説明文の違いなども極めてあいまいである。

またディベート等、総合的な学習であっても、説明文や作文等の基本的な指導との関連性や、評価の観点、言語能力の位置付けがはっきりされないまま行われていることが多い。

新しく求められている、このような力を育成するためには、説明文、音声言語学習における指導観の転換が必要であると思われる。特に、説明文の学習と音声言語学習の関連を中核に、自己表現をいかに効果的に、論理的に行うかという「発信型」の表現技術を指導するという観点が必要である。^(注1)

2. 学習の改善への視点

(1)「公的な表現技術」と思考方法の指導の必要性
身の回りにあるたくさんの情報の中から、その児童

らしい情報を選ばせ、それを論理的で個性的に表現させるには、指導者が、情報の整理の方法や判断の仕方を具体的に指導する必要がある。

情報をただ集めて発信するのではなく、①目的・場面・相手・条件（時間や分量）等から、②いかに説得力をもって論理的に個性的に表現するか、③そのための「構成方法（何を選び、何を捨てるか）」「公的な表現技術（レポート・論文型の内容構成の原理）」等の技術を段階的に指導することが必要である。また、児童たちの発達段階に合わせて、問題の構図について気付けさせる支援（問題の判断の仕方の指導）をすることも必要である。

このようにこれまで十分指導されてこなかった「公的な表現技術」や判断の方法（思考方法）を的確に指導することにより、児童たちの「情報」活用や表現の能力は論理的で個性的なものになるとと思われる。^(註2)

（2）説明文教材の特質をどのように生かすか

— 国語科としての「情報」のとらえ方 —

説明文教材は、筆者の主張について、わかりやすい例を選び、「公的な表現技術」を用いて論理的にまとめられたものが多い。つまり説明文の「段落」の意味（キーワードと説明）とその「構成」方法（段落の作り方と組み合わせ）等は自己表現の総体として考えることができるのである。

そのため、国語科では、説明文教材を1つの「情報」のモデルとしてとらえ、その内容や発想、「情報」の構成の方法などを、児童たちの「表現」生かすという観点から焦点化して扱うことができる。

また、先生との会話や連絡事項、教科書等、児童たちが日常接する言語の9割は論理的な文章（説明文）である。それに理科や社会等他教科では、国語の説明文より、もっと高度な概念操作や情報量のある文章に接する場合があっても、キーワードの選び方・公的な文章構成（内容構成）の方法・レポートやスピーチの基本から個性化への評価の観点等が指導事項になることはない。

そこで、国語科では、説明文の特質を生かし、音声言語学習との関連を中心に、情報の論理的な「理解」「構成」「表現」の基本から応用個性化へのステップ、学び方（自己評価能力）の方法を指導支援したいと考える。説明文の学習等を国語科での1ジャンルの指導としてではなく、他教科の学習にも生きる言語教育の中核を指導するという観点から考えるのである。

「情報」の正確で個性的な理解と判断、表現方法を指導するために、説明文という「情報」の中の論理性を抽出し、児童たちに評価の観点を明確にした自己表現能力、つまり「生きて働く力」の1つを育てていきたいと考えた。^(註3)

3. 実践例

本稿では、説明文の「情報」のモデルとしての特質を生かし、その理解から児童による情報発信型の「表現技術」を指導した実践を紹介する。

対象は小学校6年生、36名、担任クラスの児童である。

実践の目的・構成のポイントは以下の3点である。

1. 説明文の学習が、児童による問題の発見や、「情報」理解・個性的な自己表現に結びつくような学習を組織する。
2. 「段階的な学習過程」を構成し、「基礎基本」を踏まえた論理的で個性的な自己表現力を育てる。^(註4)
3. 学習過程における評価の観点を児童に明確に自覚させ、「生きる力」につながる自己評価能力を育てる。

実践は7時間構成、概要および学習指導案は次の表の通り（資料1、2）である。

<資料1 実践内容の概要>

<「情報」の理解から表現への基本指導>

— 説明文「暮らしの中のまるい形」（東書）を例に —

実践内容の概要

- (1) 対象
小学校6年2組、36名（担任クラスでの実践）
- (2) 教材名
説明文「暮らしの中のまるい形」 坂口康（東京書籍・小5上）
※語句の抵抗が少なく、文章構成やキーワードがつかみやすいものを選び、
下学年の既習の教材を選んだ。
- (3) 指導目標
説明文という「情報」の理解から、児童による情報発信型の「表現技術」を指導するという観点より、以下の5つとする。
 - ① 「情報」の正確な理解
 - ② 「情報」発信と内容構成、思考力
 - ③ 「情報」の選択・構成、日常・経験の再発見
 - ④ 「情報」の伝達の基本と個性化、表現技術の方法
 - ⑤ 「情報」活用の自己評価能力
- (4) 授業計画
以下の段階的な学習過程を構成して、「基礎基本」を踏まえた論理的で個性的な自己表現力を育てる。（授業計画7時間）
 - ① 導入・基礎技術（1時間） ———— 学習課題の確認と学習意欲の喚起
 - ② 基本学習（2時間） ———— 読みの基本を押さえた「正確な」学習
 - ③ 応用・個性化学習（2時間） ———— 個性的で「豊かな」表現学習
 - ④ 評価学習（2時間） ———— 発信型の表現学習
 - ⑤ まとめ ———— 学習全体のまとめ、整理と一般化
- (5) 言語能力育成への支援
 - ① 児童が書いた「説明文読み方カード」を分析・整理して、付けさせたい言語能力を明確にしつつ、児童の関心・意欲を生かした学習内容を精選する。
 - ② 学習の基本と方法（a 文章構成やキーワード、b 詳しい説明や具体例の書き方、c 話し方や聞き方等）が明確になるようなシンプルなワークシートを用い、「自ら学ぶ力」や「生きる力」につながる自己評価能力を育てる。

<資料2 学習指導案>

<「情報」の理解から表現への基本指導>

説明文「暮らしの中のまるい形」(東書)を例に
第6学年国語科学習指導案

平成10年 6月17日~25日 指導者 川瀬 淳子

1 単元名 「情報」の理解から個性的な表現へ
説明文「暮らしの中のまるい形」(坂口 康)の理解からスピーチ・作文学習へ

2 教材の特色

- (1) 生活、文化などの中の“円、球の形”の意味を通して、①人間の心理や行動に与える影響②文化の豊かな多様性③発想や見方の面白さに気付かせてくれる教材である。
- (2) 身の回りの「まるい形」の役割、利点が、わかりやすく分析的に説明されているので、児童に日常を見る目、思考力、分析力をつけさせることができる。
- (3) 文章構成は「はじめ」「なか」「まとめ」のレポート的な構成であり、全体の構成や具体例の内容がつかみやすい。
- (4) 文章構成や具体例とまとめとの関係、分析的な説明の仕方が、作文(スピーチ原稿)を書くときや、スピーチをする時の参考になる。

3 指導目標

- (1) 「暮らしの中のまるい形」の内容を「正しく」読み取ることができる。
⇒「情報」の正確な理解
- (2) 「暮らしの中のまるい形」の文章構成(はじめ・なか・まとめ)や、具体例の分析的な説明の方法を理解することができる。
⇒「情報」発信と内容構成、思考力
- (3) 「暮らしの中のまるい形」の「はじめ」「まとめ」に合う具体例を、生活経験から選び、わかりやすく記述することができる。
⇒「情報」の選択・構成、日常・経験の再発見
- (4) 絵や図を用いるなど、説明がわかりやすくなる工夫をしたり、話し方に気を付けながら、友だちによく分かるスピーチをすることができる。
⇒「情報」伝達の基本と個性化、表現技術の方法
- (5) 自分や友だちのスピーチの内容・話し方等の評価をすることができる。
⇒「情報」活用の自己評価能力

4 授業計画(7時間完了)

時	主な学習内容	指導・支援と評価
導入	1 導入 2 観読による全文通読	1 <支> 身の回りの丸い形のを挙げさせる <評> (1) 身の回りの丸い形について関心を高めることができる。 (2) この説明文(情報)に対する学習意欲を高めることができる。 (3) スラスラと音読することができる。 2 <支> 説明文(情報)の読み方の基本を意識づけるために、以下の観点を示す。 (1) おもしろいと思った段落を選ぶ。 (2) 疑問に思ったり、詳しく考えてみたいと思った段落を選ぶ。 (3) この説明文を読むために大切だと思うことを書く。 (4) この説明文で、筆者が一番言いたかったことを書く。 (5) 説明文の内容に対する自分の感想を書く。 <評> 説明文(情報)の読み取りの見通し、課題意識を持つことができる。
基礎技術	3 音読・斉読 4 「説明文読み方カード」の記入	
基本学習	1 「説明文読み方カード」のまとめを読み合う。 2 斉読による前時の復習 3 ワークシート1を使用し、説明文の「構成」、キーワードをつかむ。 4 本時のまとめ	1 <支> いろいろな意見を紹介し、他の児童の考えや説明文の読み方について話し合わせる。 2 <支> 正確な音読により、理解を助ける。 3 <支> ふだんのスピーチの「構成」との対比や、ワークシート1への記入により「暮らしの中のまるい形」の「構成」、キーワードをつかませる。 <評> 文章構成(はじめ・なか・まとめ)を理解し、キーワードを正しく指摘することができる。 4 <支> 以下のような自己評価の観点を示す。(次時以降のまとめについても同じ) (1) 「わかったこと」…学習内容の正確な理解 (2) 「自分で考えたこと」…課題発見のきっかけ、個性的な着眼点へのステップ
習	1 音読による前時の復習 2 ワークシート2により、「具体例のわかりやすい書き方の学習」 (1) 分析的な説明の仕方 (2) 絵や図を取り入れると効果的であること 資料3	1 <支> 音読は毎時行う。斉読では読みが苦手な児童も安心して取り組むことができる内容の理解も抵抗なく行うことができる 2 <支> ワークシートを使用し、ポイントを絞った学習に、無理なく楽しく取り組ませる。 (1) 内容に合った説明の方法に気付かせるために、「なか」の段落のポイントを()抜きにし、穴埋めさせる。 (2) 絵や図がわかりやすく説明するために有効な方法であることに気づかせる <評> 具体例をわかりやすく書くための方法

時	主な学習内容	指導・支援と評価
3	本時のまとめ	(説明の方法・絵や図の利用)を理解することができる。
4	1 「まるい形」の特徴を分類した資料を見る。資料4 2 「暮らしの中のまるい形」の説明の仕方にならって、ワークシート3に具体例を2つ書く計画を立てる。資料5 3 本時のまとめ 4 ワークシート4を使ってスピーチ原稿の具体的な書き方を予告する。	1 <支> 「まるい形」の特徴を分類した資料を配付し、児童が発見した「まるい形」やその意味の分類を容易にさせる。 2 <支> 児童の個性は、具体例の選択や例の説明の方法に表れる。個別指導では、一人一人の個性が引き出せるように、関心の在りかをよく聞いたり、説明の方法を整理したりする。 <評> 具体例を選択し、それらについてわかりやすく説明する計画を立てることができる。 4 <支> 「暮らしの中のまるい形」の文章構成と、「はじめ」「まとめ」を書き直したものを利用し、具体例についてわかりやすく説明することを知らせる。それにより、作文が苦手な児童の負担を減らすと同時に、論理的な思考力を育てる。
5	1 スピーチ原稿を詳しく書くための方法を確認する。 2 字数の確認 なか1(180字) なか2(180字) 3 2つの具体例を絵や図を取り入れながらわかりやすく書く。(下書き)(清書)資料6 4 発表するときに使用する資料の準備	1 <支> 詳しくわかりやすい原稿を書くために「暮らしの中のまるい形」の説明の仕方を参考にするとともに、名前や数字、特徴を具体的に書くこととよいことも知らせる 2 <支> 文章構成と字数を設定することで具体例をわかりやすく書くことに集中させる 3 <支> 個別指導では以下の評価項目に沿って添削し、推敲させる。 (1) 「なか」と「まとめ」の整合性はあるか。 (2) 一段落一事項となっているか。 (3) 「なか」の記述はわかりやすいか。 4 <支> スピーチをよりわかりやすくするという観点から簡単な資料(絵や図など)を準備させる。 <評> 「はじめ」や「まとめ」に整合する個性的な「なか」を記述し、スピーチをよりわかりやすくするための工夫をすることができる。
6	1 わかりやすいスピーチをするためのポイントを「スピーチ評価カード」で確認する。資料7 2 スピーチの練習 3 スピーチ発表会	1 <指> スピーチの内容、話し方、聞き方について具体的な評価の観点を示し、それを意識させながら、スピーチに取り組ませる。 2 <支> 資料を用いて2分間で話そうとしているか個別に見る。またキーワードだけでスピーチ原稿をなるべく見ないで話せるようにさせる。 3 <支> 以下の評価の観点を示し、「スピーチ評価カード」に記入させる。また、上手なスピーチを選ばせ、その理由も書かせる。 <評> (「スピーチ評価カード」参照) (1) 友だちが興味を持つような、おもしろい例を見つげることができる。 (2) 数字や名前をはっきり入れたり、「暮らしの中のまるい形」の説明の仕方にならったりして、例を詳しく書くことができる。 (3) 「はじめ」「まとめ」につながる具体例を選ぶことができる。 (4) 話している時の表情や視線、姿勢に気を付けて話すことができる。 (5) 話の内容がよく伝わるように、声の大きさや速さ、間の取り方、抑揚などを工夫して話すことができる。 (6) 決められた時間を守って話すことができる。 (7) 絵や図などを効果的に使いながら話すことができる。 (8) 話し手を見ながら話を聞くことができる。 (9) 話し手の選んだ例の数や、その説明の仕方について考えながら聞くことができる。 (10) 自分なりの考えや意見を持ちながら話を聞き、大切だと思ったことはメモを取りながら聞くことができる。
7	4 友だちのよかった点の発表	4 <支> 友だちのスピーチのよいところを学ばせる。
まとめ	1 学習全体のまとめ、学習の一般化	1 <支> 学習した文章の構成の仕方や説明の方法は、今後の作文やスピーチに生かしていくとよいことを知らせる。

学習の流れは、説明文「暮らしの中のまるい形」という「情報」を正しく理解する、その「情報」から、説明の方法、発想といった、スピーチや作文に役立つ論理性を抽出する、そしてそれらをスピーチや作文に結びつけ、音声化、文字化させていくというものである。

具体的な展開については、児童の反応をもとに「段階的な指導過程」に沿って紹介することにする。

(1) 導入・基礎技術 (1時間)

第1時のこの段階では、導入、範読による全文通読、音読・一斉読という過程の後、「説明文読み方カード」(省略)を記入させた。このカードの観点は、次の5つである。

1. おもしろいと思った段落を選びましょう。
2. 疑問に思った段落や、詳しく考えてみたい段落を選びましょう。
3. この説明文を読むために大切だと思うことを書きましょう。
4. この説明文で、筆者が1番言いたかったことは何でしょう。
5. 説明文の内容に対する自分の感想を書きましょう。

この5つの観点から説明文を読むことにより、説明文(情報)の読み方の基本を意識付けさせるようにした。

児童たちが書いたカードを分析すると、この説明文に対する児童たちの多様な関心や意見を知ることができる。特に、「コロ」について説明された10段落と、「コロセウム」について説明された15段落は、「おもしろいと思った段落」と、「疑問に思った段落」の上位に入っており、児童たちが関心を持ちつつ、同時に具体的にはよく分からないという部分であることが分かった。

また、「3. この説明文を読むために大切だと思うこと」の部分を見ると、文章構成を考える、具体例の内容や数を考える、意見を持ちながら読む等、説明文の読み方の観点が定着しつつあることもわかった。

そこで、以後の学習では、具体例の内容を正しく読み取らせ、説明文の読み方の観点が書き方の観点にも通じることに気付かせながら、スピーチ、説明という情報発信の学習につなげていきたいと考えた。

(2) 基本学習 (2時間)

第2時、第3時の基本学習では、「説明文読み方カード」(省略)のまとめを読み合い、多様な考えや説明文の読み方について話し合った後、2枚のワークシートにより、説明文の内容やその書き方について学習させた。

ここで使用したワークシートは、内容読み取りのためだけのものではなく、「情報」の構造を知り、また個性を育てるためのステップとして位置付けた。ワー

クシートには、「ステップ①」から「ステップ⑥」を設け、児童たちにも「情報」の読み方、生かし方が明確に分かるようにした。

第2時に使用したワークシート1(省略)では2つのステップを設定した。

「ステップ① “まるいもの” を挙げてみよう」では自分がどんな丸い形に関心をもっているのかを考えさせた。学習のはじめの段階の関心を、後の情報発信の学習につなげるきっかけとしてである。

「ステップ② 全体の組み立て(構成)をつかもう! キーワードを見つけよう!」では、朝の1分間スピーチと比較させながら「情報」の構成、具体例の数とキーワードをつかませた。「情報」の内容を把握しながら、論理的な内容構成の方法を知るためである。

そのあと、今日の学習から「わかったこと」「自分で考えたこと」を書かせ、学習内容の正確な理解、課題発見のきっかけ、個性的な着眼点へのステップとして位置付けた。

第3時に使用したワークシート2(資料3)を挙げる。(次頁参照)

ワークシート2では「ステップ③ 「なか」(具体例)はどのように書き進められているだろう!」を設定した。ここでは自分のスピーチや作文の参考にするという観点から、説明文の「具体例」がどのように書き進められているかを学習させた。

ワークシートでは、具体例のポイントを()抜きにし、穴埋めさせる過程で、具体例が分析的に述べられていることに気付かせた。また、イラストを3カ所書かせることによって、絵や図を用いることがわかりやすく説明するために有効な方法であることにも気付かせた。

このように基本学習では、「情報」の構造や伝達の方法を知るという観点から内容を読み進めた。ここで学んだ観点は、児童が実際にスピーチをしたり、スピーチ原稿を書くときに役立つ観点として位置付けていった。

また、指導内容を絞ったシンプルなワークシートを用いることにより、学習の基本と方法が明らかになり、各時間の学習の目標を児童たちにはっきりと自覚させることができた。

(3) 応用・個性化学習 (2時間)


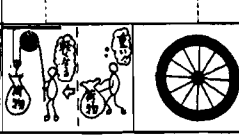

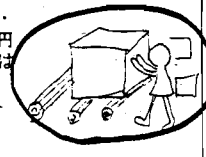
第4時、第5時の応用・個性化学習では、これまでに学習した「情報」の構造や伝達の方法を生かして、スピーチ原稿を書く学習に取り組みさせた。具体的には「暮らしの中のまるい形」の文章構成と、「はじめ」「まとめ」を書き直したものを利用し、詳しくわかりやすい具体例を記述するという活動である。

初めに、教材の発想の良さを生かした支援を行うために、「丸い形」の特徴を分類した「資料」(資料4)を配付した。(次頁参照)

＜資料3 基本学習で使用した読み取りの「ワークシート2」児童の記述例（実物はB4判）＞

ワークシート2
「暮らしの中のまるい形」
六年（ ）組（名前）
坂口 康

ステップ③
「なか1」（具体例）はどのように書き進められているだろうか！
「なか2」（③④⑤段階）は、三つの具体例から構成されています。詳しく見直してみよう。

なか3	なか2	なか1	例
<p>・現在の野球場や競技場 （円形）</p> <p>・まるい人がき （サーカス）</p> 	<p>・水車 （歯車）</p> <p>・車輪</p> 	<p>・ボタン</p> <p>・マンホールのふた</p> 	<p>まるいもの （絵・イラスト）</p>
<p>・円は（中）からでものきより同じである。</p> 	<p>・円の中心を固定しておけば、どのような向きに回しても、元の形とびったり異なる。 （正方形、星型のような複雑な形以外の形）</p>	<p>・直径より、少し大きめのボタン穴をあけておけば楽に通すことができる。 （丸い）を合わせなければならぬ。 （丸い）をまわると、ふたが穴の中へ落ちしてしまうこともしらぬ。</p>	<p>まるい形（円）の特長 （その他の形の場合）</p> <p>なぜまるい形だとよいのか （理由・根拠）</p>

※ 児童が書いたイラスト
（コロの絵は指示していないが、この児童はかき加えている。）

＜資料4 応用・個性化学習で使用した「資料」（丸い形の分類）（実物はB4判）＞

資料
「暮らしの中のまるい形」
六年（ ）組（名前）
坂口 康

「なか1」「なか3」で取りあげられている、「まるい形」の特長をまとめてみると、次のようになります。

1. 形が便利。
ボタン
マンホールのふた
2. 道具として役立つ。大切な条件を持つ。
車輪
水車
歯車
かっ車
軽自動車
荷物
3. みんなを平等にする。
まるい人がき
サッカー場
コロセウム
4. 心をつなげる。
キャンプファイヤー
5. 形がおもしろい。
コロセウム
おもしろい形の建物だな。
パリ・ノートルダム
正面はらまど
6. その他
自然の中に多くあるね。
年輪
波もん
みんたたくさん
見つけたね。
ニコちゃんマーク
なぜまるいといふのかな？
人の「夏」のまね、カワイイ元気がでる。

身の回り、または、いろいろな本のなかから、まるい形をどんどん見つけよう。
そして、それらはなぜまるいといふのかを考えてみましょう。

「資料」で挙げている「1, 形が便利」「2, 道具として役立つ大切な条件を持つ」「3, みんなを平等にする」という特徴は, 説明文の具体例として挙げられているものの特徴を分類したものである。また「4, 心をつなげる」「5, 形がおもしろい」「6, その他」の特徴はワークシート1の「ステップ①」や「説明文読み方カードのまとめ」で話題になったことをもとに作成した。

この「資料」によって, 児童たちは丸い形の特徴を容易に分類することができ, この観点に従って丸い形を楽しく探すことができた。

ワークシート3(資料5)の「ステップ④ 実際に具体例を書いてみよう」では, 実際に具体例を選ばせ, 「資料」を参考にさせながら, その特徴や, 丸い形である理由について考えさせた。

させた。

「ステップ⑤ スピーチ原こうを書こう!」ではスピーチ原稿の具体的な書き方を説明するためにワークシート4(省略)を用意した。




そこでは「はじめ」「まとめ」は教材を書き直したものをそのまま使うものとし, 「なか1, 2」の書き方は教材の書き方のよいところを取り上げ説明した。

その後「スピーチ原稿の下書き」(省略)に取り組みせ, 180字の具体例を2つ書かせた。推敲は個別指導で行い, 「なか」と「まとめ」との整合性はあるか」「1段落1事項となっているか」「なか」の記述はわかりやすいか」という観点から添削した。

「スピーチ原稿の清書」(資料6)では, 原稿の下端に「自由メモ欄」を設け, キーワードや話し方の工夫などのメモをさせた(次頁参照)。そこでは, これ

<資料5 応用・個性化学習で使用した「ワークシート3」(スピーチ原稿の設計) 児童の記述例(実物はB4判)>

ワークシート3
六年()組 名前()
坂口 康

具体例2	具体例1	なか3より	例
 ・リコーダーの穴	 ・めんまじょう	 ・コロセウム ・現在の野球場や競技場	まるいもの 特ちょう
① 形が便利 ② 道具として役立つ ③ みんなを平等にする ④ 心をつなげる ⑤ 形がおもしろい ⑥ その他 まとめてみよう	① 形が便利 ② 道具として役立つ ③ みんなを平等にする ④ 心をつなげる ⑤ 形がおもしろい ⑥ その他	① 形が便利 ② 道具として役立つ ③ みんなを平等にする ④ 心をつなげる ⑤ 形がおもしろい ⑥ その他	まるい形(円)の 特ちょう
↑もしも田舎で 三回とかた ぶんききにく い	1 三角や四角だ とかたがたに なるには とすにの せよ	3 おおぜいの人 が見ることが できる 4 競技場が一体 となって 5 歴史的なまる い建物は見学 者の目を楽し ませる	なぜまるい形だ とよいか (理由・根きよ)

「暮らしの中のまるい形」
 ※実際に、詳しくわかりやすい具体例を書いてみましょう。
 ※どんな具体例を思い付きますか。この説明文の説明の仕方を参考にしながら
 まとめてみましょう。

ワークシート3
六年()組 名前()
坂口 康

資料5の児童は「まるいもの」として, 麵棒と, リコーダーの穴を選んだ。そして「まるい形(円)の特ちょう」の欄では, 形が便利の1番に丸をつけ, 「なぜまるい形だとよいか」は, 他の形と比較しながら, 図や吹き出しも入れて説明している。

このような設計をもとに, スピーチ原稿の下書きを

までの学習をもとに, 友だちにわかりやすく伝えるためにはどんなことに気を付けたらよいかを考えさせた。児童たちはキーワードを強調することや, 思考のステップをゆっくりといねいに説明すること等を書き込んでいた。また, その説明がわかりやすくなるように, 図も2つ用意させた。

第6時, 第7時の評価学習では, 「スピーチ発表会」を行った。児童が説明文の学習により, 収集し, 構成した「情報」を, 相互に評価しながら発表する活動である。そこでは「評価カード」(資料7)を用意し, わかりやすいスピーチの方法について意識させながら取り組ませた(前頁参照)。

評価カードでは, スピーチの内容, 話し方, 聞き方という3つの観点から合計10個の項目を挙げたが, 毎朝の「1分間スピーチ」等で, ある程度日常的に身に付けさせている観点であるため, 児童たちは抵抗なく取り組むことができた。

児童たちが説明した「まるい形」とその説明の方法はどれもその児童らしく, ふだんの関心がとてもよく表れていた。「題名」は楽しく工夫され, 「なか1」, 「なか2」はその他の形と比較しながら説明されたものが多かった。また自然界の丸い形を取り上げたものもあり, それらの児童はまとめを自分なりに書き直していた。わかりやすく説明するための図表等もよく工夫されており, 聞き手の児童たちは発表者の個性的なスピーチを楽しんでいた。

(5) まとめ

発表会終了後は, 今回学習したことを, 今後の作文やスピーチに生かしていくとよいことを話し, 学習全体のまとめ, 学習内容・方法の「一般化」を行った。

4. 実践の考察

実践の成果は大きく言うと, 次の3点であると考えられる。

- (1) 説明文の学習を情報発信型の表現学習に結びつけたことは, 丸い形の意味を分析的に発見していくという教材の思考方法に従って, 日常や経験を再発見させることができ, また文章構成, 例と考察・図表と説明等の「表現技術」を楽しく学ばせることができた。
- (2) 「情報」の理解から表現への「段階的な学習過程」は, 基本から応用学習・評価の観点の指導を無理なく行うことができ, 「基礎基本」を踏まえた論理的で個性的な自己表現力を楽しく育てることができた。
- (3) 「説明文読み方カード」や, 指導内容のポイントを絞ったシンプルなワークシートは, 学習の基本と方法を明確にし, 児童の目に見える形で学習内容の方向, 「正確さ」や「個性化」の基本を示すことができた。これらは児童の関心・意欲を生かしながら, 「生きる力」につながる自己評価能力を育てていく有効な手段であると言える。

以下, 学習後の児童たちの感想を紹介する。感想は分類すると, 大きく次の3点に分けられる。具体的な感想例も挙げる。

- (1) 「情報」を読んだり, 集めたりするのが楽しか

った。

- ① 「「ああそういえば」とか「なるほど」と思うことが多かった。」
 - ② 「なぜ丸いとよいのかを考えたり, 他の形ではいけないわけを考えると楽しい。」
 - ③ 「この説明文の勉強は5年生の時に1度やったはずなのに, 今回の勉強の仕方ですごく新しく知ったことがたくさんあって, 自分でもびっくりした。」
- (2) 学習の方法がよく分かった。個性的な表現に自信を持った。
- ① 「説明文の読み方や書き方がよくわかった。」
 - ② 「スピーチのまとめ方やわかりやすい説明の方法がわかった。」
 - ③ 「説明の方法を工夫したらみんなが喜んでくれてうれしかった。」
- (3) 友だちの個性がわかった。自分の個性はどうか。
- ① 「選んだ例を見ると, 一人ひとりの個性がわかる気がして楽しかった。」
 - ② 「みんな自分では考えられない世界を持っているんだね。」
 - ③ 「おもしろい意見や発見がいっぱいだった。自分の意見はどう思われているのかな。」

このように説明文という「情報」の理解から, 児童による「情報」の発信へと結びつけた学習は, 論理的で個性的な表現力を育て, 楽しい学習活動を実現する。また, 基本から応用学習へのステップや, 各段階の評価の観点等を明らかにしたことは, 一見, 自由な活動という形で児童に任せる学習よりも, 逆に楽しく個性的な学習活動になるということもわかった。

児童一人ひとりの個性を大切にしながら, 「生きる力」につながる「論理的で個性的な表現力」を育てるために, 説明文の特質をとらえ, 学習過程, 学習技術を考えていくことは, 今後, 非常に重要である。

5. おわりに

複数の教科を関連させた「総合化」に向けて, 国語科では「場面」や「目的・相手意識」の判断を含んだ「国語科コミュニケーション能力の育成」「論理的で個性的な表現技術の指導と支援」の必要性が, とりわけ重視されている。

今後は, 表現学習として焦点化しやすい説明文の教材開発や, それらの学習で学んだ観点を他教科や生活経験の発見の中に生かしていく「総合化」的な発展学習の段階(レポート作成と発言, 評価)の学習活動の開発が求められるものと考えられる。

児童たちの関心・意欲を分析しつつ, 21世紀社会を生きるために必要な諸能力を, 楽しく身に付けさせることができるよう実践的な研究を重視していきたい。

なお, 本稿における実践部分は, 平成10年8月2日(日)に行われた第61回日本国語教育学会・全国大会

[小学校・スピーチ・説明 <聞く・話す>分科会・於、国立教育会館]での研究発表「<「情報」の理解から表現への基本指導>—説明文「暮らしの中のまわるい形」(東書)を例に—」(川瀬淳子報告)の一部である。8頁という本紀要の紙面の関係上、児童の身に付く「学習技術」として開発したワークシートやその成果と考察、結果として児童のまとめた論理的なレポート・スピーチの状況等についての詳細は割愛せざるを得なかったことをお断りする。

<注記>

1. 佐藤洋一「論理的で個性的な「表現力」の学習技術」
(『実践国語研究 4-5月号』明治図書 平成10年5月)
2. 〃 「「個」を生かす指導の基本的理念」
(『月刊国語教育 平成10年5月号』東京法令出版 平成10年5月)
3. 〃 「「生きる力」を育てるための「学習技術」「学習過程」の方法」
(『平成9年度研究報告集 第59集 豊田市教育研究所』 平成10年3月)
4. 〃 「楽しく学ぶ国語科学習システム」
(講演資料 平成9年8月)

5. その他の参考文献

- (1) 佐藤洋一「説明文との関連を重視した音声言語指導」「作文との関連を重視した音声言語指導」「思考力を育てる音声言語指導」
(『音声言語指導ハンドブック(相澤秀夫・佐藤洋一他編)』東京法令出版 平成8年5月)
- (2) 〃 「「論理」「描写」の基本指導の位置」
(『教課審「中間まとめ」国語科改善案の検討』明治図書 平成10年4月)
- (3) 榎岡妙子「論理的思考力を育てる音声言語指導」
(『実践国語研究 別冊 楽しく自ら学び合う国語科授業の実践事例20選』明治図書 平成10年10月)